

指導の実際

1 道徳科における学び（「道徳ノート」への児童の記述）

- おうちの人と携帯電話やゲームをするためのルールがあるなら、守らないといけない。そういうルールがないなら、携帯電話やゲームの扱いについておうちの人とルールを決めておく必要がある。
- ゲームをする時は、家族と時間を決めておく。今の自分のルールはタイマーを使ってゲームをしているので、これからも続けていきたい。
- ゲームやメールのやり取りで「自分からやめたら相手が気を悪くするかも…」と思わず、自分からやり取りを終わらせるなど、時間を意識しながら携帯電話を扱うようになりたい。
- 携帯電話を使うことは、規則正しい生活ができるようになるまでがまんしなければいけない。自分で正しい生活ができるようになってから、携帯電話を持つようにする。
- 携帯電話以外でも、相手と通信できるものを持った時には、きまりを決めたり正しい使い方かどうかを考えたりしながら使う。

2 道徳科における学びを活かした「情報モラルに関する指導」

道徳科で学習したことを踏まえ、情報モラルに関して、全校で一斉に指導する強化期間を設け、発達の段階に応じた教材（事例アニメ教材）を活用しながら授業を行った。また、夏季休業前には警察と連携した情報モラルに関する指導として「生活安全教室」も行った。

【道徳科における学びを活かした実践事例（第6学年・総合的な学習の時間）】

◆教材名 「え！こんな人だったの！」（出典：「だれもが実践できるネットモラル・セキュリティ」（三省堂））

◆児童の反応

- 「会いませんか？」というメッセージが届いたときの主人公の気持ちについてペアトークをさせたところ、「知らない人だから会うのはちょっと悩む」という意見と「いい人だから会ってみよう」という意見が出てきた。自分とは違う考えに触れ、それぞれの意見の理由を聞くなど、やり取りをすることで考えが深まった。
- 「主人公はどんな行動を取ればよかったのか」という点についてペアトークをすると、「ネットの中で連絡を取るだけで会わなければいい」という考えや、「ネットの中だけでも知らない人とつながることは怖いことだ」という考えが出てくるなど、多様な考えを交流することができた。



◆児童のワークシート

★もし、ネット上での出会いの被害にあってしまったらどうしますか？

家の人などに相談する。直接水んくも取った。
会ったりしない。もし会おうなどと言われたらしかり
断れる。

★もし、ネット上での出会いの被害にあってしまったらどうしますか？

お家の人に相談する
インターネットをあまり使いたくない
こまごますることがあたら近くの人に相談する。

3 成果（○）と課題（●）

- 道徳科の授業については、ペアトークを取り入れたことで、自分とは違う考えに触れることができた。さらに、友達の考えを聞くことで、物事を多面的・多角的に捉えた深い学びにつながったと考える。
- 情報モラルについて、総合的な学習の時間や特別活動と関連付けて指導を行うことで、情報を扱う上でのルールやマナーとともに、相手を思いやる気持ちや自分を律することの大切さなどについてもあわせて指導することができた。
- 1学期末に全校一斉に情報モラルの授業を行ったことで、夏季休業前に発達の段階に応じた指導ができた。また、警察と連携して全体指導を行ったことでトラブルの未然防止にもつながると考える。
- 他教科等と関連付けた指導であるため、カリキュラムの見直しや改善が必要である。例えば、インターネットを利用して調べ学習をする前に情報モラルの授業を設定するなど、適切なタイミングでの指導を行うことがより有効である。
- 情報モラルに関する指導については、家庭の協力を得ることで、さらにその効果が増すと考える。保護者への情報発信や啓発、協力的な指導について工夫する必要がある。

4 今後に向けて

- 道徳科と他教科等を関連付けるとともに、発達の段階に応じた情報モラル教育を継続的に行う。
- 参観日に情報モラルの授業を行い、子どもと保護者が一緒に考える機会を増やしていく。